令和５年８月 22 日

令和５年度　２学期始業式講話

安来高等学校　校長　中西正実

・ 二学期の始業にあたって、私から少しお話をいたします。
　今日は、「学校は社会のミニチュア」ということと、
そこで何を得るかということについてお話をいたします。

・ 今、ちょうど皆さんは、蒼輝祭の準備に取り組んでいるところと思います。
　さて、昨年の学園祭の時、皆さんは、次に私が言うどの立場に一番近かったでしょうか？
一年生の皆さんは、中学校の時のことを思い出してもらって結構です。
　今から読み上げますので、当てはまると思うものを、心の中で選んでみてください。
では、いきます。

① 祭りを楽しんでる人
② 祭りを見ている人
③ 祭りに来た人に対応している人
④ 祭りのイベントを演じている人
⑤ 祭りのイベントを裏で支えている人
⑥ 祭り全体を運営している人
⑦ 祭り全体を企画している人
⑧ その他

・ いかがでしょうか？
　確かに、コロナの影響で、思うような活動ができなかったでしょうから、
本来の自分のイメージとは、違っている部分もあるかも知れません。
　祭りと言っても、さまざまな場面や役割がありますので、ひょっとすると、
その時々や場面によっても、立場が変わるかも知れません。
　ただ、言える事は、これらの誰が欠けても祭りは成り立たない、
という事だと私は思います。

・ 先ほど私は、「学校は社会のミニチュア」だと言いました。
そうすると、蒼輝祭はおおよそ、社会や組織の中における、
事業やイベントのミニチュアという位置付けになります。
　私は、皆さんがこれから経験する、蒼輝祭での、様々な立場や役割を
大事にして欲しいと強く願っています。
　そして、そこでの、成功や失敗、満足や後悔、喜びや悲しみなど、
そこでの多くの経験や感覚を大事にして欲しいと思っています。

・ なぜなら、今は、スマホの画面から簡単に知識や情報、
　“how　to〟を見ることできる時代です。そのような時代ですから、
相手にきちんと「何か」を伝えようとしたり、説明しようとしたりするときには、
自分のリアルな経験や体験がないとうわべだけのものになってしまって、
うまく相手の心に伝わらない。私は、強くそう思うのです。

・ ですので、皆さんには、学園祭だけでなく、どんなに小さな事でも、
思い切って飛び込んで、たくさんの経験をしてもらいたい。
　そうすると、必ず、今まで気づかなかった何かが見えたり、
感じたりすることがあって、その一つ一つが、皆さんの大切な財産となるはずです。

・ どんなにすごいと思える人も、誰もが最初はルーキーで、
きっと、最初の一歩は勇気がいったことと思います。
　ただ、一歩踏み出せば、次の一歩は、必ずもっと大きく踏み出せるはずです。
それが、経験と自信による行動の変化であり、成長と言えます。

・ 今日は、「学校は社会のミニチュア」というお話しと、
目の前の様々なハードルに対してほんの少し勇気を出して、
チャレンジして欲しいというお話をしました。
「何かこれ苦手だな」とか「やりたくないな」と思ってしまう場面が、
これからたくさんあるかも知れませんが、そのようなときには、
今日の「誰もが最初はルーキー」なんだ、ということをぜひ思い出してみてください。

　以上で、私からのお話を終わります。